

# 講演会 & ライブ な日々 ⑮

古川 秀明

「和歌山 串本 台風旅 最終回」

<トルコアイス>

灯台からの帰り道、こんな看板を見つけた。



のび〜るアイスクリーム。

トルコではアイスクリームやシャーベットなどの氷菓子全体を「ドンドウルマ」という。

トルコは気温が高いのでドンドゥルマが溶けて垂れるのを防ぐために粘度を上げる必要があり、増粘剤としてサーレップ（トルコの山岳部に自生する植物）の根を使う。

このサーレップがのび～るアイスクリームの秘密なのだ。

トルコアイスは露店で売られることが多い。

その売り方がおもしろいのなんのって。

日本のバナナのたたき売りによく似ているのがまたおもしろい。

<講演会場>

和歌山に来た目的は観光ではない。

講演会&ライブのために来たのだ。

お仕事お仕事。

今日の会場はここ。



那智勝浦町体育文化会館

海辺にある立派な会館。

会場周辺の景色が美しい。



なんと目の前に海が広がっている。



これは講演会場からの景色。  
まるでハワイのビーチみたいな砂浜が続いていた。



昨日の台風の記事が新聞に大きく取り上げられていた。  
しかし！



見て下さいこの抜けるような青空を！  
台風一過とはまさにこのこと。  
晴れ男の面目躍如。  
さて、申し分ない会場に気合いは十分！  
しっかりしゃべりませ！歌いませ！  
まずは腹ごしらえ

講演会を始める前にお昼ご飯を頂く。

ほとんどがお弁当だ。

別名ロケ弁と称して売られている

いろんな講演会を出して頂くこのロケ弁が結構気に入っている。

ご飯は冷たいし、揚げものはべちゃべちゃしているし、漬けものは塩分がきつ過ぎたりと、どなた様にもあまり評判のよくないロケ弁。

だけど地方により微妙にご当地の食材が入っていたりして楽しいこともある。

さてさて、和歌山ではどんなお弁当が出るだろう・・・。



おお、なんだか仕出し屋さんから注文した感じがするなあ。

中身はどんなかな・・・。



うわあ～、これは豪華！

もはやロケ弁ではない。

揚げものもカラッと揚げてあるし、おまけにまだ温かいぞ。

煮物も酢の物も一流料亭のお味。

出汁巻きは出汁がよく利いて卵も濃厚だ。

おまけにでっかいエビまで入っている。

これはまるで何かのお祝い膳だ。

きっと高価だろうなあ。

厳しい財政の中でがんばってくれはったんやろなあ。

あるいは和歌山ではこれくらいが当たり前なのかもしれないなあ。

腹ごしらえもできたし、さて本番だ。

<本番・舌好調>

絶好調ならぬ舌好調。

昼食を食べながら主催者の方と会話がはずむ。

本番前にあまりしゃべりすぎると喉が持たないから控えた方が良いのはわかっているが、楽しいのだから仕方ない。



セッティング前の会場。

まるで体育館みたいな広さの会場に100以上の椅子とテーブルを並べるのだが、みなさんの手際が良いので10分もかからなかった。





だんだんと人が集まってこられる。  
今日のお話はオープンダイアログ「対話の力」。  
最新の情報と知識を提供する。



今回和歌山までお供してくれてギター。  
台風の中あなたもよくがんばったね。  
このギターとふたりで日本中旅している。  
さて、次はどこに旅しようか・・・。

<おまけ>

橋杭岩（はしぐいいわ）

せっかく串本まで来たのだから、まっすぐ帰るのはおもしろくない。



串本にある奇岩群。

向こうに見えるのは大島。

海岸から大島に向けて大小約40の岩が南西一列のおよそ850メートルも続く。

直線状に岩が立ち並ぶ姿が橋の杭のように見えることから橋杭岩と呼ばれている。



朝日がとても美しく、日本の朝日百選の認定も受けている。





和歌山、串本は観るところがいっぱいあったなあ。  
う～ん、また来よう。  
次はゆっくり温泉にでもつかりたいな。  
海に見える露天風呂がたくさんあるらしい。  
しかし問題はいつものことながら休みが取れないこと。  
いやいや、必ずチャンスは訪れる。  
最初は台風のスリル満点でその後は素晴らしい景色と観光に恵まれ、仕事も順調にこなせた幸せな和歌山。  
そろそろさよならだ。  
また来るからね～！

シンガーソングライター  
ふるかわひであき